

# ばんたね ネットワーク



## ロボット手術を開始しております



外科・小児外科  
教授 加藤 悠太郎

当院では2023年9月より手術支援ロボットダヴィンチXiによる手術を開始しました。私が担当する肝胆膵領域では、手術難度を問わず全ての肝切除術式の保険診療が可能で、すでに10例程度行なっています。膵切除も膵体尾部切除から開始しており、膵頭十二指腸切除も開始予定です。個人的には、国内最多のロボット肝切除執刀経験から、ロボット肝切除は開腹・腹腔鏡手術に比べて術後合併症が少なく、良好な短期・長期成績を得ています。再発腫瘍に対する再肝切除も多数経験し、癒着剥離や癒着の中での血管剥離等でロボット機能の利点を感じます。高齢や身体機能に余裕がない患者さんでは特にロボット手術のメリットがあります。どんな肝胆膵腫瘍でもまずはロボット手術の適否を検討し、その利点を最大限届けられるよう努力してまいります。



泌尿器科では最新の医療技術と高度な治療法を提供し、患者様の生活の質を向上させるためロボット支援手術を導入しております。なぜロボット支援手術が目ざされているのか、その理由は明確です。ロボット支援手術は伝統的な手術法に比べて1) 高繊細で微細な操作が可能であり、術後合併症が少なく早期機能回復や優れた治療結果を実現します。2) 手術侵襲が少ないため疼痛が少なく、早期退院が可能です。3) 創部が小さく外見に与える影響が少ないです。当科では経験豊かな泌尿器科専門医がロボット支援手術に取り組み、腎部分切除術、腎摘除術、前立腺全摘術、膀胱全摘術、完全腔内尿管変更術を行っております。ぜひ当科のロボット支援手術の利点と当科の専門性を患者様に提供できればと思います。



泌尿器科  
准教授 深見 直彦

外科・小児外科  
教授 花井 恒一



私は下部消化管疾患に対し、積極的に低侵襲手術を導入してまいりました。1998年に腹腔鏡手術を開始し2009年に本邦初 Robotic assisted system (RAS) を使用した大腸癌手術を行って以来500例超の手術を経験してきました。その中でも肛門に近い直腸癌の手術は深く狭い領域の操作を要するため、従来の腹腔鏡、開腹手術では難度の高い手術でした。しかし、RASは手振れ補正や鉗子に関節機能を有することで、従来の手術の欠点を補い、安全で精緻な手術ができ肛門や性排尿機能温存の可能性が上がります。当院は手術室の増設とRASが導入され、経験豊富なスタッフがRASを使用した手術を行います。患者の生活の質、根治性の向上を提供しますので、ご紹介のほどお願い申し上げます。

写真は直腸癌手術で肛門管近傍での手術操作の画像です。



2023年9月より産婦人科でもロボット支援下手術が開始されました。ロボット支援下手術の最大

の利点は、骨盤深部における高解像度映像により安定した視野が得られることと、多関節鉗子により繊細な操作が無理なく行える点であり、開腹手術と比較して出血量と術後疼痛を軽減でき、従来の腹腔鏡と比較して手術合併症を低減することが期待されています。現在は、良性子宮疾患に対する、子宮全摘術のみ行っていますが、早期子宮体癌に対する悪性腫瘍手術、骨盤臓器脱に対する仙骨腔固定術などに適応を拡大してゆく準備を進めています。手術は専門の資格を持った医師を中心に安全な運用を心掛けており、ご紹介を頂いた患者様に高度な医療を安全に提供できるよう努めてまいります。

産婦人科  
講師 塚田 和彦



## 血液浄化センターご案内

### ご挨拶

慢性腎臓病はわが国に約1,300万人存在し、成人の8人に1人と推定されています。慢性腎臓病の一部には進行性の経過をたどり、透析療法を含む腎代替療法を必要とする患者が発生します。藤田医科大学ばんだね病院血液浄化センター・腎臓内科は、あらゆる腎疾患に対応できる体制を確立しつつあり、その一環として2023年8月21日より新棟4階に血液浄化センターが新設されました。地域における慢性腎臓病診療に少しでも貢献できるよう努力する所存です。



腎臓内科  
教授 稲熊 大城

### センター紹介

血液浄化センターは、腎臓内科医師5名（腎臓専門医3名・透析専門医4名・腎代替療法専門指導士1名）、看護師5名（特定看護師2名）、臨床工学技士4-5名で治療にあたっております。センター内には陰圧個室1室（新型コロナウイルス感染症などに対応）を含む21床のベッドを有しています。



### ◆センターの特徴◆

血液浄化センターは、通常の血液透析に加え、オンライン血液透析濾過、腹膜透析、全血漿交換、二重膜濾過血漿交換、血漿吸着ならびに腹水濾過濃縮再静注法などのあらゆる血液浄化療法を実施可能です。また腎移植についても藤田医科大学病院（豊明市）と連携して進めています。また透析に使用する水について特にこだわりを持ち、日本透析医学会が定める超純粋透析液の基準を満たしております。

### ◆主な対象疾患◆

慢性腎臓病（慢性腎不全）、急性腎障害、急速進行性糸球体腎炎、各種免疫疾患（全身性エリテマトーデス、悪性関節リウマチなど）、神経疾患（多発性硬化症、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症など）、劇症肝炎、家族性高コレステロール血症、閉塞性動脈硬化症、皮膚疾患（天疱瘡、類天疱瘡）

### 診療体制

各治療シフトに腎臓内科医1-2名、専任看護師4-5名ならびに臨床工学技士4-5名が担当し、全ての入院外来透析患者を診察し、必要な検査、処方あるいは処置を行っています。また定期的に管理栄養士からの食事指導をベッドサイドで行っています。

### 設備等

日機装社製患者監視装置21台（多用途透析用監視装置18台）、透析支援システム（Future Net Web）、アーム式TV、東レ社製水処理装置（RO装置・全自動溶解装置・多人数用透析液供給装置）



### 血液透析の開始時間などについて

#### ■血液透析の実施クール

月・水・金、または火・木・土

#### ■透析開始時間

- ・外来透析：午前9時から12時
- ・入院透析：適宜

### 透析を受けられる場合のご案内

#### ■服装

透析毎に体重変化をきたさないようにご配慮いただきご自身でパジャマ等の軽装を用意いただけます。

#### ■準備品

ご自身が必要な場合はタオル1枚およびバスタオルを1枚用意頂きます。

#### ■来院方法

透析受診時の駐車場料金は無料です。また最寄駅である「JR尾頭橋駅」や「尾頭橋バス停」からは徒歩5分圏内です。

# ばんたね看護セミナーのご案内



当院看護部では、地域医療支援病院として地域の医療従事者の質向上を目的とした研修会を開催しております。今回は、訪問看護師、療法士に実施した「フットケアについて」ご紹介させていただきます。

2023年10月19日(木) 12:30~13:00訪問看護ステーションに看護師2名が伺い、看護師、療法士13名、他にZOOMでの参加もありました。この施設では、昨年度もフットケアの基本的な内容のセミナーをおこなっており、今回は鶏眼、爪切り、巻き爪の処置方法など具体的な研修内容で実施しました。訪問看護においても足浴、爪切り処置は日常におこなうケアであるため、具体的な研修内容で良かったと感想をいただきました。

糖尿病患者等で、フットケアが必要な人がいましたら、要件が満たせば当院外来にて対応可能なためご相談ください。



当院のフットケア外来の様子



研修風景

### チェックポイント

- 1  靴擦れがないか
- 2  やけどやひっかき傷がないか
- 3  「たこ」や「うおのめ」ができていないか
- 4  皮膚が乾燥していないか
- 5  巻き爪など爪の変形がないか
- 6  水虫・爪水虫がないか

研修資料①: 足病変チェックリスト

### 足病変がある人のケア①

#### 胼胝(たこ)・鶏眼(魚の目)

原因: 足にかかる圧迫、圧力によるもの  
好発部位: 足背 趾間 足底

靴、足の变形、歩き方など圧のかかる原因を把握し、  
圧のかかる時間の把握によって原因を探る

研修資料②: ケアの実際について

## ご案内

看護師による出張セミナーを実施しています。気になることや、知りたいことがあればご連絡ください。

**お問い合わせ先:ばんたね病院 看護部長室:052-323-5781**

【編集発行】  **藤田医科大学ばんたね病院** 地域医療連携センター

【発行年月日】 2024年1月31日

〒454-8509 名古屋市中川区尾頭橋3-6-10

TEL:052-321-8171(代表)052-323-5927・5918(地域医療連携センター直通)

FAX:052-323-5726(地域医療連携センター直通) <http://www.fujita-hu.ac.jp/HOSPITAL2/>

